



「モノ認識」 x 「モバイル」 x 「自動化」 = AsReader

IoT × AsReader = DX Digital Transformation

2026年8月期 第3四半期 決算説明資料

 Asterisk Inc.

株式会社アスタリスク

証券コード：6522

2026.7.15

index



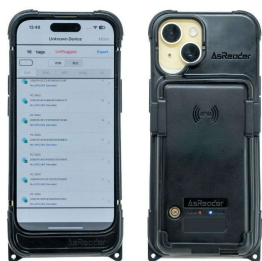
1. トピックス	P3
(1) トピックス	
(2) エグゼクティブサマリー	
(3) 第20期（2026年8月期）3Q連結業績ハイライト	
(4) 第20期（2026年8月期）3Q単体業績ハイライト	
2. 事業概要および導入実績	P25
3. 経営環境、当社の動きと成長イメージ	P29
4. Appendix	P34

(1) トピックス

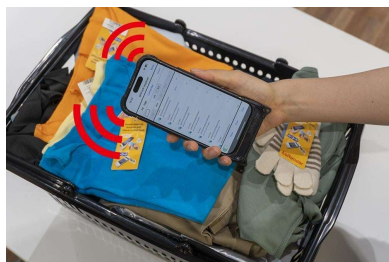
1. (1) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 9/1 リリース

RFIDリーダー「ASR-M30S」の発売開始 ～新サービス「FIND AsCode」も同時リリース～



新型RFIDリーダー「ASR-M30S」



新ソリューション「FIND AsCode」

リリース概要

新型RFIDリーダー「ASR-M30S」と新ソリューション「FIND AsCode」の提供を開始します。

トヨタ自動車での採用実績を持つ従来機の後継となる「ASR-M30S」は、スマホからの給電によるバッテリーレス設計で劇的な軽量・薄型化を実現。読み取り距離も約2倍に向上し、現場の負荷軽減と作業効率化を両立させました。

併せて提供する「FIND AsCode」は、特許出願中の独自技術を用い、RFID運用の長年の課題であった「タグの破損」を解決します。RFIDと独自コード「AsCode」を紐付けることで、電波で検知できない破損タグをカメラで瞬時に特定。アパレルや製造現場でのロスタイムを最小化します。これらはサプライチェーンを高度化するグローバル戦略の核として、欧米市場への展開も視野に入れた革新的なサービスです。

新サービス提供開始 9/29 リリース

“大量一気読み”AsCodeで期限管理を革新する 新アプリ「StmA（エスティマ）」の提供開始 ～コンビニ・スーパーから物流まで利用可能に～



リリース概要

「StmA（エスティマ）」は、特許出願中の独自技術「AsCode」によって世界の現場効率化をリードする革新的ソリューションです。

最大の特徴は、従来のバーコードや目視確認の常識を覆す「圧倒的な同時読み取り性能」にあります。スマートフォンをかざすだけで数十点の商品期限を瞬時に判別し、直感的な色とマークで可視化することで、バックヤード業務の劇的な省人化と廃棄ロス削減を同時に実現します。本アプリは食品管理に留まらず、物流資材や駐輪場管理など多角的な展開が可能であり、多言語対応によって既に欧米やアジアなどグローバル市場を見据えた知財戦略を推進しています。月額1,000円から導入可能な低コストかつ高収益なサブスクリプションモデルを武器に、世界標準のインフラを目指して急速な市場拡大を牽引します。

1. (1) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 10/15 リリース

**Bluetooth 接続の“耳を塞がない”
ヘッドセット「AsReader PTT」を提供開始**
～“Air 伝導”方式により、快適で自然な通話環境を実現～



リリース概要

「AsReader PTT」は、独自の「Air伝導」方式により、現場のコミュニケーションを再定義する革新的なウェアラブルデバイスです。従来の骨伝導方式の欠点であった不快な振動や音のこもりを解消し、クリアな音質を実現しました。耳を塞がない設計により、接客や機械の異音検知など、周囲の環境音を必要とするプロフェッショナルの現場でも安全かつ確実な情報共有を可能にします。

32gの超軽量設計、160時間の連続待機、IP54の防塵・防水性能を備え、医療から製造まであらゆる産業のDXを支えるインフラとして高い実用性を誇ります。既存の

「AsReader」シリーズとのシナジーにより、現場効率化市場における圧倒的なシェア拡大と収益成長が期待されます。

新サービス提供開始 12/3 リリース

POS「Salasee（セラシー）」の販売開始
～手のひらサイズで実現する次世代POSレジ、セルフレジ～



リリース概要

自社ブランドのクラウドPOSシステム「Salasee（セラシー）」は、かつて大手企業へ譲渡した同ブランドを、上場による財務基盤の強化と長年の技術蓄積、そして主力製品「AsReader」とのシナジーを背景に、満を持して自社サービスとして復活させます。

「Salasee」は、スマートフォン1台で決済から在庫管理までを完結させる機動的な運用と、Windows端末による自由度の高いレジ構築の両面を兼ね備えています。特にメーカーを問わない周辺機器との柔軟な接続性は、既存設備を活かした循環型の導入を可能にし、百貨店やアパレル、食品メーカーなど多種多様な現場の課題を解決します。単なるレジの枠を超え、売り場のデジタル化を強力に推進するプラットフォームとして展開します。

1. (1) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 12/15 リリース

RFID 導入のハードルを解消！検証作業と製品選定の負担を大幅軽減する
「RFID スターターキット」の提供開始

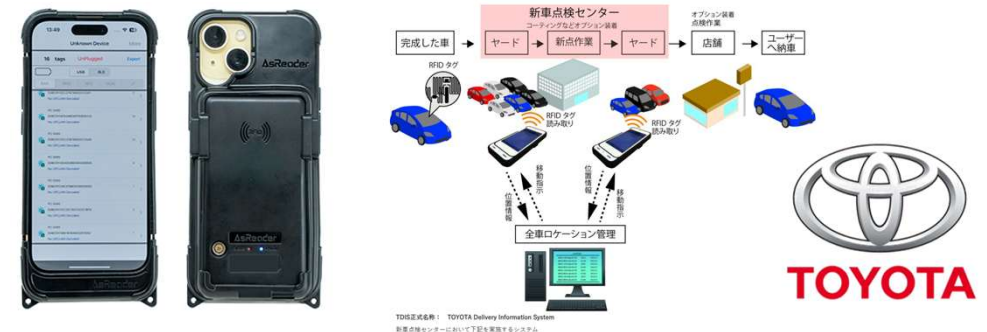


リリース概要

「RFIDスターターキット」は、導入の大きな障壁となっていた専門的な検証作業や製品選定の負担を劇的に軽減する画期的なソリューションです。従来、RFIDの導入には環境に応じた読取りテストや、膨大な種類の機器・タグから最適な組み合わせを見つける高度な知見と多大な時間を要していましたが、本キットはこれらをワンパッケージ化することで、専門知識がなくても低リスクかつスピーディーに運用を開始できる環境を実現しました。本キットには、実績豊富なリーダーライターと多様な材質のタグ、さらには最適な読取りを実現するための環境構築ノウハウが凝縮されており、本格導入前の概念実証（PoC）を効率的に進めることが可能となります。これにより、導入失敗のリスクを最小限に抑えながら、現場のDXを迅速に推し進めることが可能となります。

新サービス提供開始 1/19 リリース

トヨタ自動車の完成車物流システムにおいて継続採用



リリース概要

トヨタ自動車では2015年より、新車点検センターにおいてRFIDを活用した完成車物流システム「TDIS」を運用しています。車両ごとのRFIDタグとスマートフォンを連携させることで、車両の所在管理から作業進捗の入力までをヤード内で完結させ、大幅な業務効率化を実現してきました。この運用を支えるRFIDリーダーは、スマートフォンの機種変更時にも専用ケースを替えるだけで継続利用できる点が評価され、約10年にわたり採用されています。

今回、iPhoneのUSB Type-C移行に伴い導入された最新モデル「ASR-M30S」は、バッテリーレス設計による薄型・軽量化が特徴で、必要な時だけ給電して使用できる利便性を備えています。本事例は、業務用端末が従来の専用ハンディターミナルからスマートフォンへと移行し、現場のDXを加速させている象徴的なモデルケースといえます。

1. (1) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 2/24 リリース

大手アパレル企業「株式会社ワールド」へRFIDリーダー『AsReader』を導入

～国内約7,000名規模のグループ店舗におけるDX化を加速し、店舗オペレーションの革新を実現～



リリース概要

今回の導入の最大の特長は、店舗の美観や接客スタイルを損なわない高いデザイン性とカスタマイズ性です。小型アンテナとRFIDリーダー（ASR-P37U）を組み合わせることで、服を畳む動作の流れで会計が完了する「ハンズフリー読み取り」を実現。

さらに、あべのハルカス近鉄本店の「アンタイトル」のようなラグジュアリーな空間では、什器内部にアンテナ内蔵型リーダー（ASR-P35U）を設置し、限られたカウンスペースの有効活用とブランドの世界観の維持を両立させています。

国内最大手企業へのこの導入実績は、製品の信頼性と技術力を証明する重要なマイルストーンとなります。今後はグループ内への展開に加え、保守やデータ活用支援を通じた中長期的なパートナーシップを構築することで、リテール業界全体のDXを牽引する旗艦事例としての役割を担っていきます。

RFIDレジ関連特許の再取得 3/16 リリース

特許権譲受（再取得）の決定および「グローバル標準レジ戦略」の本格始動



リリース概要

RFIDセルフレジ関連の基幹特許7件を完全自社保有化し、「グローバル標準レジ戦略」を本格始動させます。本特許は、世界最大手アパレルグループの国内外数千店舗で年間数億点の決済を支える、圧倒的な稼働実績を持つ革新的技術です。今回の特許再取得により、外部に依存しない迅速な意思決定が可能となり、国内外の小売・物流市場へのライセンス供与を自社主導で加速させます。従来のハードウェア販売に加え、高利益率なロイヤリティ収益を柱とするストック型ビジネスモデルへの転換を図り、業界のプラットフォームホルダーとしての地位確立を目指します。

実証済みの「社会インフラ」としての知財基盤を独占的に活用することで、中長期的な企業価値の飛躍的な向上が期待されます。今後、この強固な知財戦略を武器に、グローバルな決済インフラの標準化を強力に推進していく方針です。

1. (1) トピックス (FY26)

戦略的業務提携の開始 3/17 リリース

コーユーイノテックスとアスタリスク 「顔認証システム」導入で戦略的な業務提携を開始



リリース概要

コーユーレンティアの子会社であるコーユーイノテックスと、顔認証システム等の導入に関する包括的な業務提携を開始しました。本提携は、拡大する生体認証市場を見据え、アスタリスクの高度な顔認証技術やAIソリューションと、コーユーイノテックスが持つ全国規模の施工・保守ネットワークを融合させるものです。

これにより、アスタリスクはハードウェア販売に留まらず、アプリ開発から設置工事までをワンストップで提供する体制を構築し、高付加価値なストック型収益モデルへの転換を加速させます。両社の顧客基盤を相互に活用することで、流通・小売から建設、医療、データセンターまで幅広い業界へ販路を拡大し、次世代の現場インフラとしての地位確立を狙います。本提携により、アパレル等のリテール企業への横展開に向けた強力な推進力となり、中長期的な企業価値の向上を実現する成長ドライバーとなります。

次世代リニアの発表 3/30 リリース

「浮かぶ搬送」アスタリスク、次世代リニア搬送システムを発表

コンペアの次を狙う“浮かぶ搬送”という新しいインフラ「AsReader HAKOBU」



リリース概要

リニアモーター技術を応用し、搬送体が浮上して走行する次世代リニア搬送システム「AsReader HAKOBU」のコンセプトモデルを発表しました。本システムは、搬送体がレールに接触しない「浮かぶ搬送」を実現することで、摩擦を大幅に低減し、重い荷物でも小さな力で搬送できるのが特徴です。摩耗部品が少ないため保守性が高く、さらにバッテリーに依存しない給電型を採用しているため、従来の機器では対応が難しかった冷凍・冷蔵環境や食品工場でも安定した稼働が可能です。同社は人手不足が深刻な物流倉庫や工場、店舗などの自動化を支える新インフラとして社会実装を目指しており、2026年4月に開催される「第7回 関西物流展」や米国の「MODEX 2026」での公開、および年内の実証実験を予定しています。今後はRFIDやIoT技術と融合させ、搬送とデータを連携させた新しい自動化プラットフォームの構築を推進していく方針です。

1. (1) トピックス (FY26)

EVO FUND社の新株予約権権利行使による資金調達

当社が2024年9月17日にEVO FUNDに対して発行した新株予約権について、一部権利行使および払込が完了いたしましたのでお知らせいたします。

第三者割当による第5回～第7回新株予約権（行使価額固定型）の募集概要

	割当先	個数	株式の種類と数	1株当たり行使価格	発行決議日	権利行使期限
第5回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	3,600個	普通株式 360,000株	550円	2024年8月30日	2027年9月17日
第6回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	2,000個	普通株式 200,000株	700円		
第7回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	1,000個	普通株式 100,000株	1,000円		

※第1回～第4回および第8回新株予約権は役員および従業員を割当先としたストック・オプションになります。
※2026年4月14日時点の状況になります。

リリース概要

2026年3月19日付で第6回新株予約権（160,000株）、同年3月24日付で第7回新株予約権（80,000株）の行使が行われ、合計1億9,200万円の資金調達を実施いたしました。本件に伴い、資本金および資本準備金がそれぞれ96百万円ずつ増加しております。なお、本権利行使をもちまして、EVO FUNDに対する割当分のすべてが行使完了となりました。

新技術開発の発表 4/7 リリース

アスタリスク、ブラウザから業務機器を制御する新技術を開発

OSや機器の違いを吸収し、Webアプリからバーコード・RFID・プリンタ等を操作（特許出願済）



リリース概要

当社が独自開発し特許出願した新技術は、WebSocket通信を活用して標準ブラウザから外付け業務機器を制御する仕組みです。スマートデバイスに軽量のコントロールアプリを導入することで、OS（iOS/Android）や接続機器ごとの仕様差をアプリ側で吸収し、Webアプリケーション側からは共通のプログラムで操作が可能になります。これにより、従来必要だったOSごとの個別開発やドライバ対応が不要となり、開発コストの大幅な削減とシステム導入の迅速化を実現します。バーコードリーダーやプリンタなどの機器をクラウドシステムとシームレスに連携できるこの技術は、今後自社製品への搭載や他社へのライセンス提供を通じて、業務端末のWeb化と業界のDX推進を加速させる一助となります。

1. (1) トピックス (FY26)

西鉄ストア全拠点における「AsReader GoMA」導入4/21 リリース

NEW!

西鉄ストア全拠点における「AsReader GoMA」導入を発表

R&D から商用フェーズへ。国内最大級の顔認証リプレイスプロジェクト、小売業界の DX を牽引



リリース概要

西鉄ストアの全拠点に対し、顔認証プラットフォーム「AsReader GoMA」を導入しました。本プロジェクトは、既存機器の販売終了に伴う刷新を機に、入退館・勤怠・体調管理という従来別個だったシステムを一元化したものです。最大の特徴は、国内最大級の規模で「運用の無人化・省力化」を実現した点にあります。API連携により人事システムとの自動登録を可能にしたほか、新開発の表面温度センサーを統合し、1台のデバイスで多機能を完結させました。同社はこれまで研究開発拠点での実証実験を重ねてきましたが、今回の全店導入により、技術が大規模な商用フェーズで通用することを証明しました。今後はこの成功をモデルケースとして、深刻な人手不足に悩む小売・サービス業界全体へ、ハードウェアを軸としたサブスクリプション型サービスを水平展開し、業界のデジタルトランスフォーメーションを牽引していく構えです。

「新型AsReader」を導入 6/1 リリース

NEW!

青山商事様、「新型AsReader」を導入

「スマホ1台」が店舗運営の常識を変える。棚卸しの大幅な時短と現場ストレスの解消を実現



リリース概要

青山商事の445店舗と7割近い拠点に対し、新型スマートフォン装着型バーコードリーダー「AsReader スリムタイプ」を導入しました。青山商事では、接客時の在庫確認にスマホ内蔵カメラを、大量の読み取りが必要な棚卸しには専用ハンディ端末を使い分けていましたが、操作の煩雑さや習熟コストが課題となっていました。今回導入された新型デバイスは、スマホと一体化しながらプロ仕様のスキャン性能を付加するものです。高精度なレーザー照射により、画面を注視せず連続して読み取る「ブラインドスキャン」が可能となり、棚卸し作業の大幅な時短を実現しました。これにより、スタッフは使い慣れたスマホ1台で全業務を完結でき、現場のストレスが解消されるとともに、より付加価値の高い接客へ注力できるようになりました。同社は今後も、専用端末からスマホへのシフトという世界的な潮流を捉え、小売業のDXを強力に支援していく方針です。

1. (1) トピックス (FY26)

本新株予約権発行 (TIP) による資金調達 6/26 リリース



新株予約権の発行並びに新株予約権の 買取契約 (TIP) の締結に関するお知らせ

- ◆ 当社グループは以下の成長戦略を推進しております。
 - ① 既存主力事業「AsReader」の市場シェア拡大
 - ② 新技術・新製品の開発／販売 (次世代リニア搬送システム「AsReader HAKOBU」、AsReader GoMA、Reading Tub、As Key Cube、デジタルショーケース等)
 - ③ 物流自動化・RFID・IoT・AI・画像認識・システム開発分野でのM&A及び戦略投資

これらの戦略実行のため、「AsReader HAKOBU」の研究開発・製品化資金、新製品群の販売拡大に向けた製造・仕入資金、さらに成長機会を機動的に取り込むためのM&A・資本業務提携を実行できる財務基盤の強化資金が必要となっております。
こうした成長戦略を着実かつ迅速に実行し企業価値向上を図るため、本新株予約権の発行による資金調達を実施することと致しました。

	新株予約権 (ターゲット・イシュー・プログラム)		
	第9回	第10回	合計
割当予定先	EVO FUND		
発行決議日	2026年6月26日		
発行・払込日	2026年7月13日		
権利行使期間	2026年7月14日～2029年7月13日 (3年間)		
対象株式数	575,000株	575,000株	1,150,000株
希薄化率	7.15%	7.15%	14.31% ※ (議決権ベース14.32%)
行使価額	1,800円	2,000円	
調達資金の額	10.35億円	11.5億円	21.85億円
発行価額	299円	261円	
その他	2027年1月13日以降、取締役会決議により、取締役会決議前取引日終値の90%に相当する金額に行使価額を修正することができます。但し、下限行使価額を下限とします。 ※下限行使価額：509円 ※行使価額の修正を行った場合、再度行使価額を修正する場合は6ヶ月のインターバルが必要		

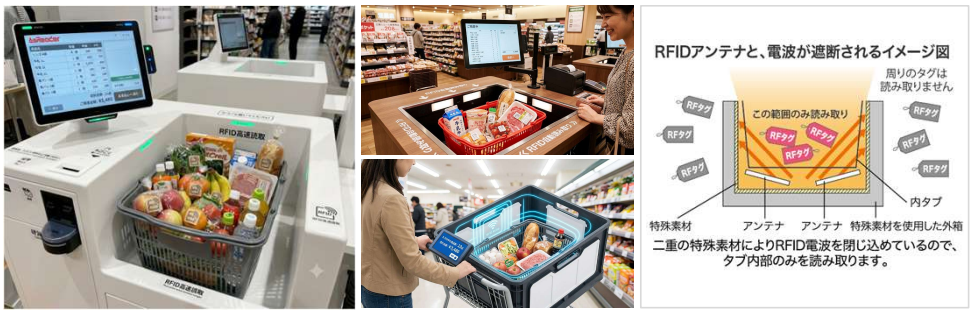
※2026年4月14日現在の当社発行済株式総数8,038,800株及び議決権数80,295個を分母とする。

「全商品RFID化ソリューション」提供開始 6/30 リリース



スーパーマーケット向け『全商品RFID化ソリューション』の本格展開を開始

特許技術により参入障壁を構築、全商品RFID化の実現を推進



リリース概要

食品スーパー向け「全商品RFID化ソリューション」の本格展開を開始しました。ユニクロ等で定着した「カゴごと一括会計」を食品スーパーでも実現し、レジ待ちのない買い物体験やリアルタイム在庫管理による店舗の構造変革に挑戦します。導入の大きな障壁であった水分や金属による電波への影響は、タグを商品表面から浮かせる独自技術で克服。また、タグに固有IDのみを持たせ情報をクラウド管理する方式 (ともに特許出願済) により、タグの低コスト化と大量貼付の工数削減を両立しました。既存のラベル貼付設備や稼働中のPOSシステムに手を加えずに導入できる高い汎用性も備えています。本プラットフォームは棚・カート・レジ・物流をRFIDで統合し、リアルタイムでの自動在庫管理や賞味期限管理の高度化、ネットスーパーの効率化などを実現します。画像認識方式に比べ個体識別やトレーサビリティ管理にも適しており、国内外での強固な特許ポートフォリオを武器に高い参入障壁を構築し、未開拓な市場を強力に牽引します。

1. (1) トピックス (FY26)

米国のプレスリリース配信サービス「EIN Presswire」を通じて、大々的にリリース 7/6 リリース

NEW!

米国市場におけるRFIDソリューション事業を本格展開

～米国特許取得を基盤に、北米市場で「AsReader RFID Reading TUB」の展開を加速～

リリース概要

今回、新たに取得した米国特許を基盤として、米国子会社AsReader, Inc.を通じ、北米市場におけるRFIDソリューション事業を本格展開します。あわせて、RFIDバスケット読取ソリューション「AsReader RFID Reading TUB」の販売を開始し、北米市場での事業拡大を加速いたします。

今回取得した米国特許は、RFIDタグが付いた複数の商品を買取物かごやコンテナ内で一括かつ高精度に読み取る技術を広くカバーしており、セルフレジや在庫管理などの分野で重要な知的財産となります。当社はこれまでもRFID関連特許を国内外で取得してまいりましたが、今回の特許取得により知的財産ポートフォリオはさらに強化されました。

これにより、当社の競争優位性が一層高まるとともに、同分野への新規参入企業にとっては技術的・知的財産的な参入障壁がさらに厚くなり、当社の優位性を長期的に支える重要な資産となります。

「AsReader RFID Reading TUB」は、日本国内での実証・運用を通じて改良を重ねてきたソリューションであり、レジ処理時間の短縮、読み漏れ防止、在庫精度の向上、人手不足への対応など、小売業界が抱えるさまざまな課題の解決に貢献します。また、独自のRFID読取制御技術により、周囲の商品を誤読することなく高い読取精度と安定した運用を実現しています。

今後は、米国、カナダ、メキシコを中心に販売活動を強化するとともに、POSメーカー、RFIDタグメーカー、SIerなどのパートナー企業との連携を拡大し、アパレル分野に加え、スーパーマーケット、物流、医療、倉庫、サプライチェーン分野への展開を推進してまいります。当社は、日本で培ったRFID技術と知的財産を活用し、グローバル市場におけるRFIDソリューション事業をさらに拡大するとともに、継続的な技術開発と特許取得を通じて、中長期的な企業価値の向上を目指します。

AsReader Announces Expansion of RFID Basket-Reading Solutions into North America with New Broadscope Patent

NEWS PROVIDED BY
AsReader
July 06, 2026, 12:00 GMT

Newly-approved U.S. patent strengthens technology platform for retail apparel, grocery, and automation applications while enhancing consumers' buying experience

Asterisk (TSE:6522)

PORTLAND, OR, UNITED STATES, July 6, 2026

[/EINPresswire.com/](#) - [AsReader, Inc.](#), a provider of RFID and retail automation technologies, today announced the expansion of its RFID basket-reading solutions to now include the entire North American market. This will speed consumers through self-checkout lanes as they won't need to scan every item, and it will help retailers with more accurate checkouts, thereby reducing loss of missed items in carts. While Asterisk has previously obtained multiple U.S. patents related to RFID technologies, this latest broadscope patent is particularly significant because it provides broad patent protection for RFID basket-reading technology in retail operations in environments such as apparel stores, supermarkets, and other retail applications.

"We bring proven RFID technologies from Japan to retailers throughout North America; RFID enables retailers to improve customers' experience, reduce labor requirements, and see real-time inventory."

— Paul Whitney, Vice President and COO of AsReader, Inc.

Called the [AsReader RFID Reading TUB](#), the Point-of Sale device has been developed, tested and implemented in Japan by parent company [Asterisk, Inc.](#) AsReader's RFID technology enables retailers to instantly identify multiple tagged items placed together inside a shopping basket, tote, container, or checkout area. The technology has been deployed in apparel and specialty retail environments where RFID-based inventory management and checkout systems have become widely adopted, but not approved for us in North America until now.

A key advantage to consumers and retailers of the AsReader platform is its proprietary RFID reading architecture, which creates a controlled reading zone capable of accurately identifying tagged items placed inside the basket while minimizing unintended reads from surrounding products. This enables both high read accuracy and operational reliability in busy retail environments.



Customer has placed entire contents of cart in the AsReader Reading TUB for easy self checkout



Peek into the cart of shopper with a cart full of RFID tagged items she will check out quickly using AsReader's new reading tub



Author Contact

Sally Murdoch
AsReader, Inc.
+1 503 754 5943
[email us here](#)

More From This Source

[Paul A. Whitney of AsReader, Inc. wins the Don Perovai award from AIM Global](#)

[AsReader Launches ASB ArtBox 3.0: A New Type of Smartphone Mounted RFID Reader/Writer](#)

[AsReader's New 'AsCamera' Aims to Enhance Barcode Scanning Power via Employees' Smartphones](#)
[View All Stories From This Source](#)

(2026年7月6日 EIN Wire Press Releaseリリース内容)

(2) エグゼクティブサマリー

1. (2) エグゼクティブサマリ

2026年8月期 第3四半期 業績

売上高			
前年同期	2026年8月期3Q	計画	
1,304 百万円	1,184 百万円 増減率 -9.2 %	計画比 -25.2%	
営業利益			
前年同期	2026年8月期3Q	計画	
-46 百万円	-41 百万円 増減率 —	計画比 —	
親会社株主に帰属する当期純利益			
前年同期	2026年8月期3Q	計画	
-66 百万円	-13 百万円 増減率 —	計画比 —	

2026年8月期 第3四半期 概況

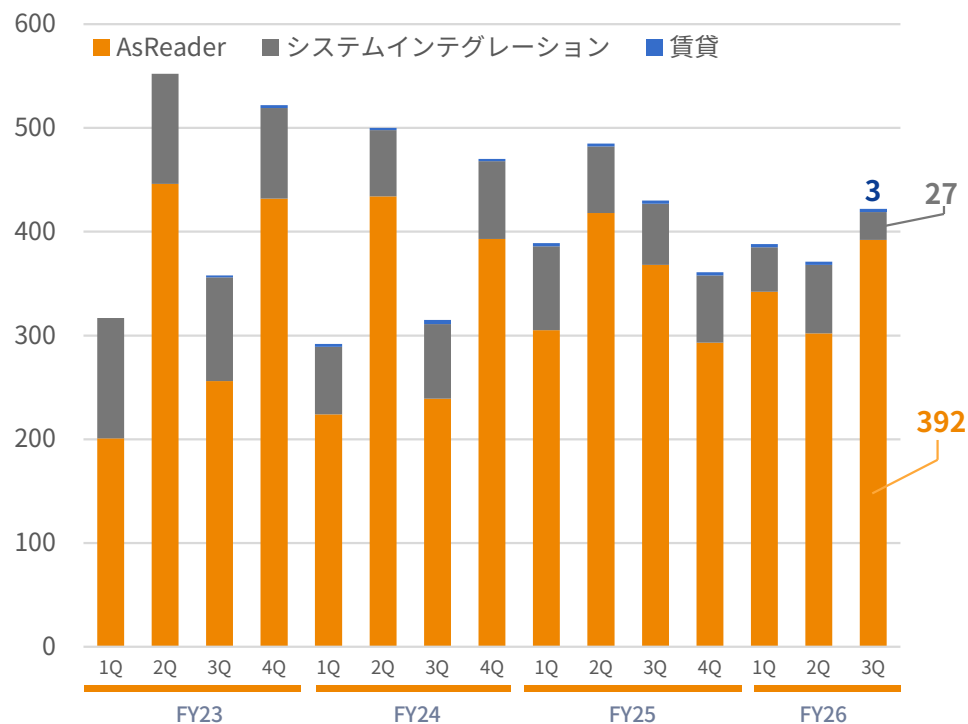
売上高	当第3四半期の売上高は、米国子会社において当初見込んでいた大型案件の売上計上時期が翌四半期以降へずれ込んだ影響により、前年同期比9.2%減と計画を下回る結果となりました。一方で、当社の 主力であるAsReader事業は堅調に推移 しており、新製品のローンチに加え、新たなプロダクトである 顔認証プラットフォームの社会実装が進展 しております。また、当期より戦略的にストックビジネスの強化を推進した結果、継続収益につながる案件の獲得が着実に増加しており、将来の安定した収益基盤の構築が進んでおります。その成果として、 AsReader事業の第3四半期連結会計期間売上高は過去最高を更新 しており、一時的な売上計上時期のずれはあったものの、中長期的な成長に向けた事業基盤は着実に強化されております。
営業利益	営業利益につきましては、人件費の最適化をはじめとする経費抑制や業務プロセスの改善によるコスト削減を推進した結果、 前年同期比で損益改善 となりました。一方、不採算店舗の解消に伴う一時的な費用を計上したことから、営業利益は計画を下回りましたが、将来の収益性向上に向けた収益基盤の強化は着実に進んでおります。
市場環境	当社主力事業が属するRFIDソリューション市場は、DX・省人化ニーズを背景に2027年には約2.3兆円規模（矢野経済研究所調べ）へ拡大が見込まれています。一方、従来のPOS市場はセルフレジや無人店舗の普及により転換期を迎えており、RFIDは次世代リテールの中核技術として期待されています。当社は、この成長市場において高付加価値製品の展開を加速し、更なるシェア拡大を目指してまいります。

※矢野経済研究所が2025年5月7日に発表した、RFIDソリューション世界市場の調査データから引用

(3) 第20期（2026年8月期）3Q連結業績ハイライト

1. (3) 連結業績推移

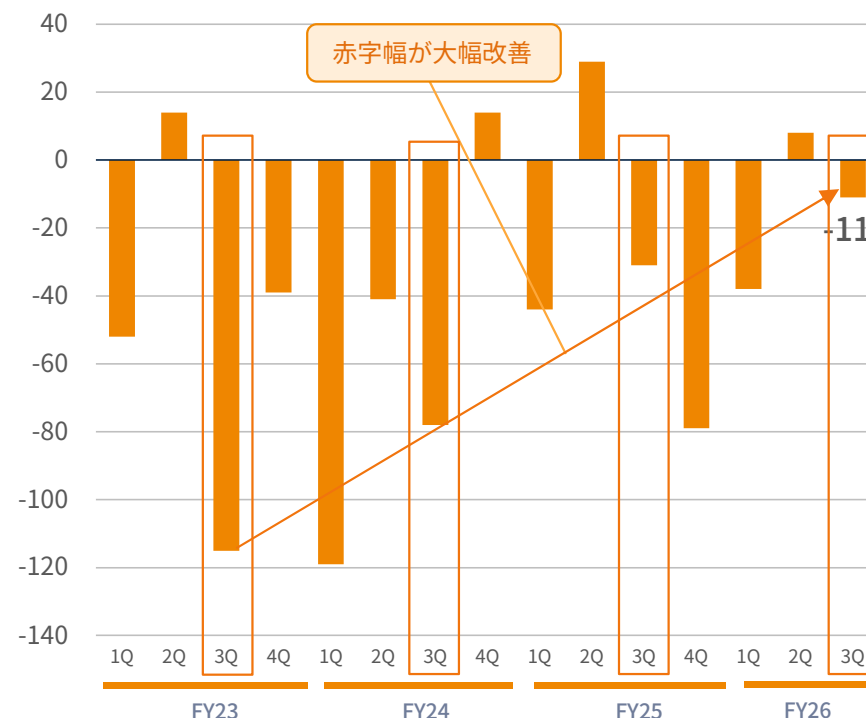
売上高 (百万円)



売上高 概況

主力のAsReader事業は堅調に推移しており、**新製品の投入や顔認証プラットフォームの社会実装が進展**しております。また、当期よりストックビジネスの強化を推進した結果、継続収益につながる案件の獲得が着実に増加し、**安定した収益基盤の構築**が進んでおります。さらに、今期より展開を開始したRFID関連の新サービスについても多くの引き合いをいただいております、今期中の受注獲得に向けて取り組んでおります。

営業利益 (百万円)



営業利益 概況

営業利益につきましては、人件費の最適化をはじめとする経費抑制や業務プロセスの改善によるコスト削減を推進した結果、**前年同期比で損益改善**となりました。一方、不採算店舗の解消に伴う一時的な費用を計上したことから、営業利益は計画を下回りましたが、将来の**収益性向上に向けた収益基盤の強化は着実に進んでおります**。

1. (3) 地域別の業績推移（売上高）

日本

前年同期比 -7.9%

1,093 百万円

(計画比 -13.1%)

アメリカ

前年同期比 -35.1%

72 百万円

(計画比 -77.3%)

その他

前年同期比 +203.5%

18 百万円

(計画比 +237.9%)

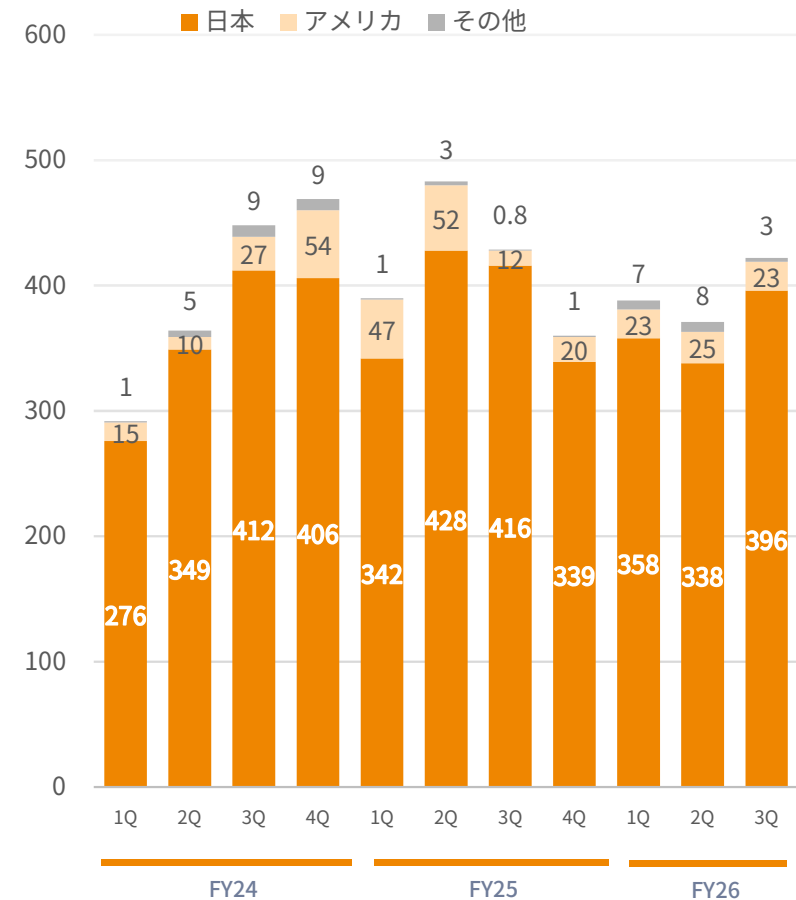
FY26 第3四半期 概況

日本市場では、システムインテグレーション事業において、社内の新サービス開発を優先したことから受託開発案件が一時的に減少し、売上は前年同期および計画を下回る水準となりました。一方で、新製品のローンチと受注は順調に進んでおり、今後の収益拡大に向けた基盤づくりは着実に進展しております。

海外市場では、大型案件の納期延期の影響により、受注実績は前年同期および計画を下回りました。この状況を踏まえ、営業体制を強化するとともに、新規案件の開拓を積極的に推進しており、中長期的な受注拡大に向けた取り組みを進めております。

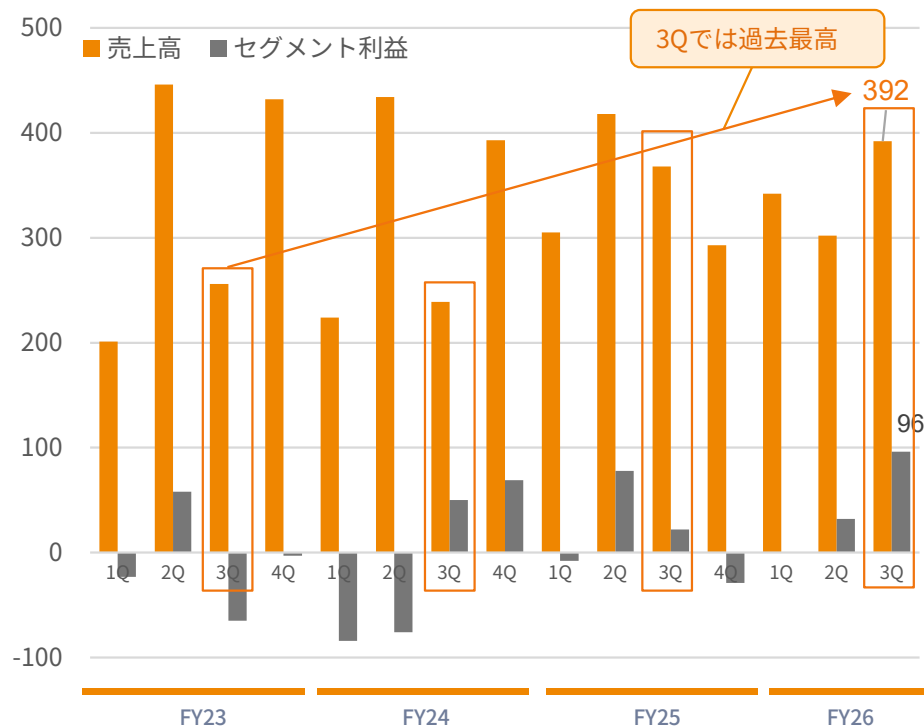
今後の展望としては、主力事業であるAsReaderに加え、RFIDソリューションや顔認証プラットフォームなど成長分野への投資を継続し、新たな収益機会の創出とストックビジネスの拡大を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

地域別業績の推移（百万円）



1. (3) セグメント別の業績推移 —売上高・セグメント利益—

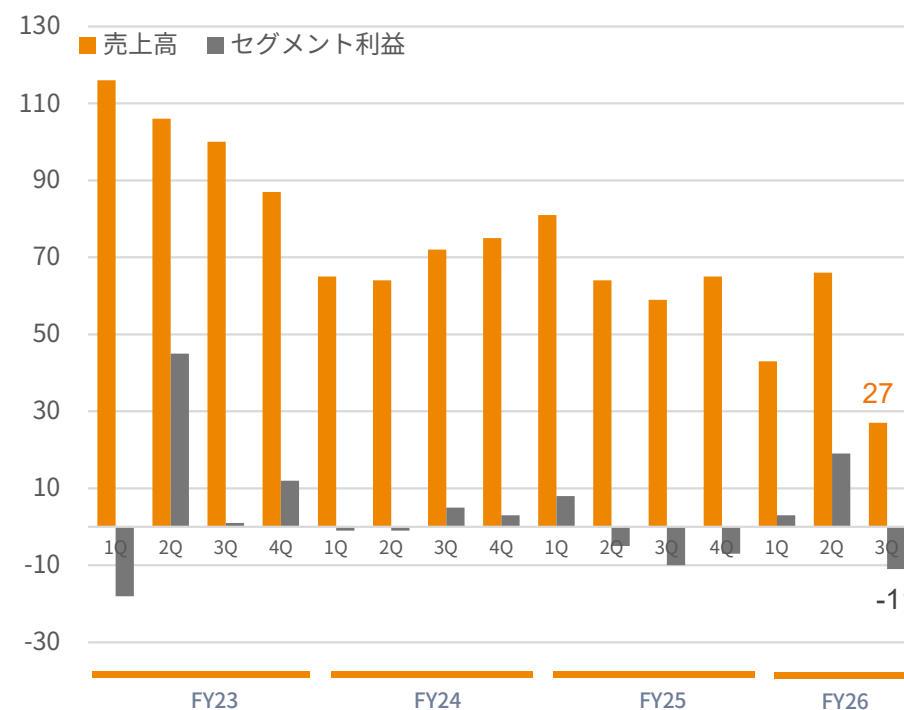
AsReader事業 (百万円)



AsReader事業 概況

主力であるAsReader事業では、高付加価値モデルへのシフトが着実に進展しており、収益性の改善が進んでおります。顔認証やAI人追跡などの次世代サービスのロ
ー
ンチに加え、新型AsReaderの導入も進んだ結果、AsReader事業の第3四半期連
結会計期間売上高は過去最高を更新しました。一部案件で売上計上時期のずれは
あったものの、中長期的な成長に向けた事業基盤は着実に強化されております。

システムインテグレーション事業 (百万円)



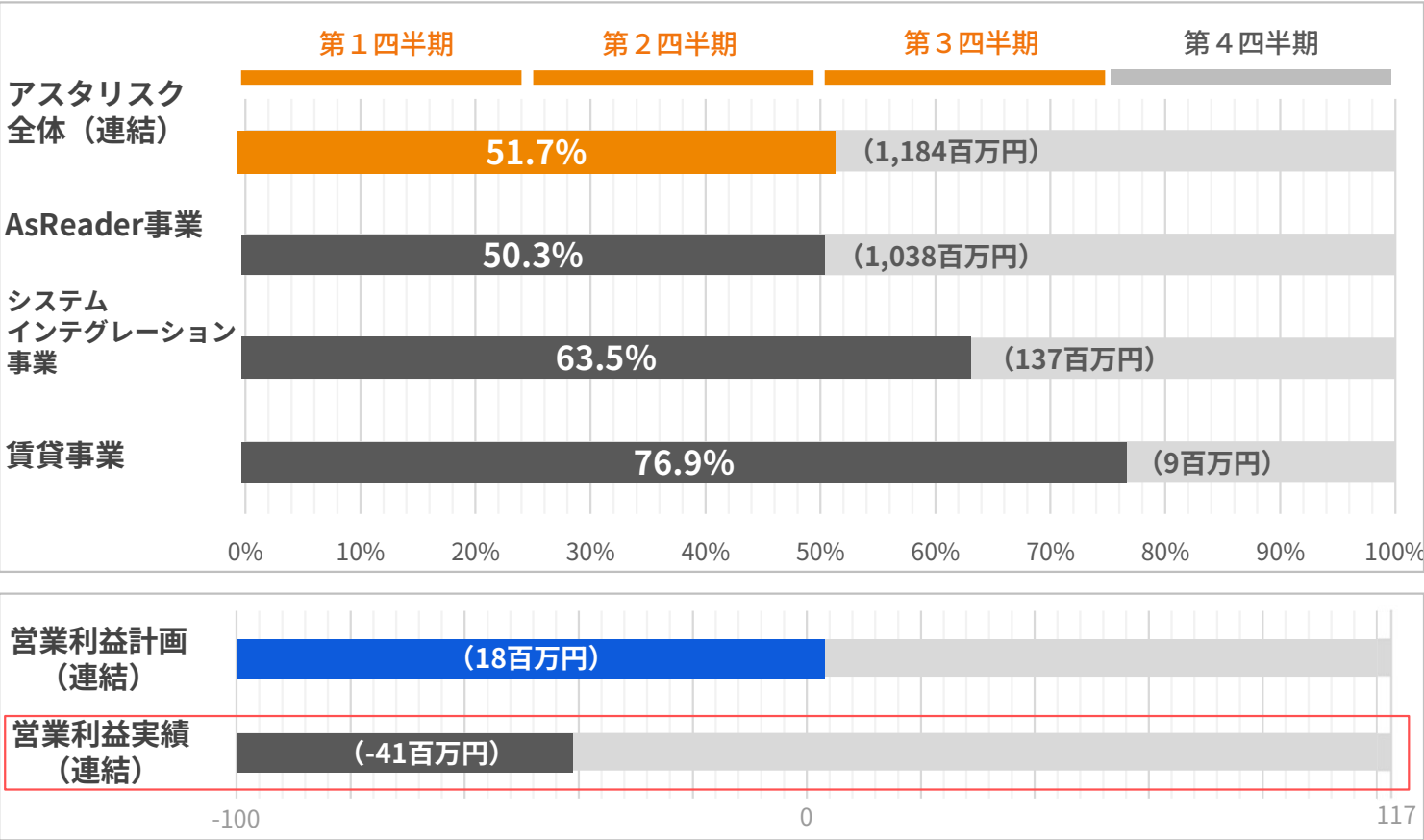
システムインテグレーション事業 概況

システムインテグレーション事業では、RFID関連サービスや顔認証プラットフ
ォームなど、将来の成長を牽引する新サービスの開発を優先したことから、受託開
発案件は一時的に減少し、売上は前年同期および計画を下回りました。しかし、
これらの取り組みは売り切り型から継続収益型への転換を支える重要な成長投資
であり、新たな収益基盤の構築は着実に進展しております。

1. (3) セグメント別売上・営業利益進捗

■ セグメント別売上および営業利益 進捗状況

売上高は、当初見込んでいた大型案件の売上計上時期が翌四半期以降へずれ込み計画の進捗を下回る。
営業利益においても、不採算事業の見直しに伴う一時的な費用の計上など、計画の進捗を下回る。



FY26 通期業績予想

売上高 (連結)
2,291 百万円 前年度比 (+37.5%)

内訳

AsReader事業
2,063 百万円

システムインテグレーション事業
216 百万円

賃貸事業
12 百万円

営業利益 (連結)
117 百万円 前年度 (-125百万円)

1. (3) ビジネスハイライト P/L (連結)

	2025年8月期 第3四半期	2026年8月期 第3四半期	前年同期比
売上高	1,304百万円	> 1,184百万円	-9.2%
売上総利益	509百万円	> 519百万円	2.0%
営業利益	-46百万円	> -41百万円	—
経常利益	-62百万円	> -11百万円	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	-66百万円	> -13百万円	—

1. (3) ビジネスハイライト B/S (連結)

(百万円)	2025年8月期 期末	2026年8月期 第3四半期
流動資産	1,729	1,842
現金および預金	932	1,079
売掛金および契約資産	276	206
商品および製品	404	392
その他	116	163
固定資産	1,051	1,025
有形固定資産	898	887
無形固定資産	21	9
投資その他の資産	131	128
資産合計	2,781	2,867

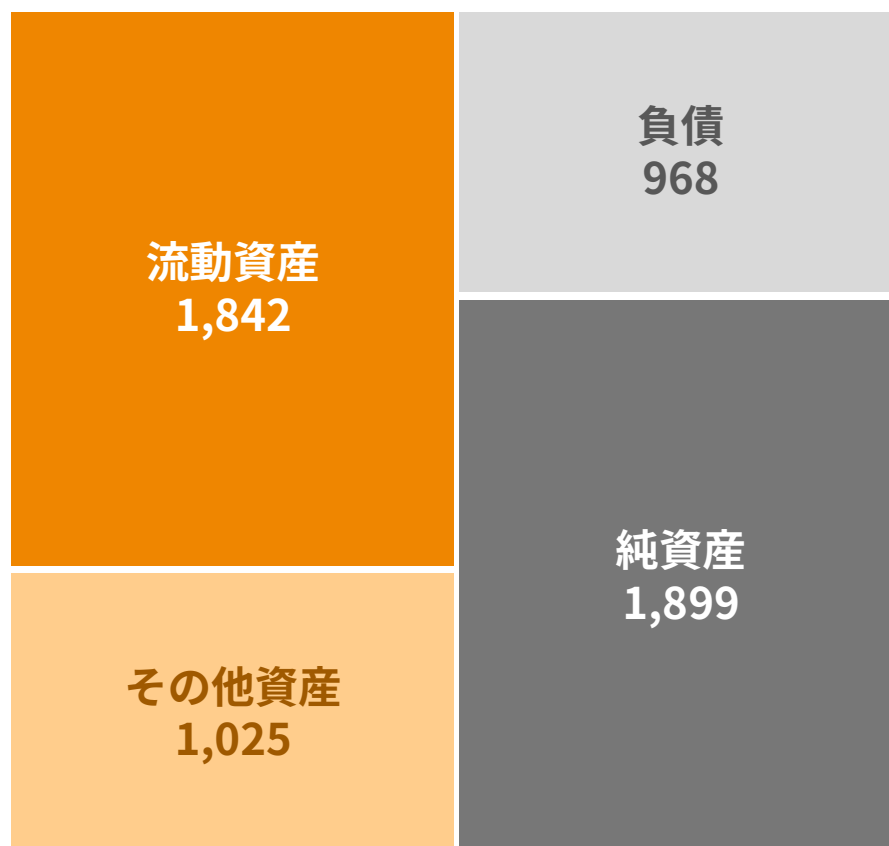
(百万円)	2025年8月期 期末	2026年8月期 第3四半期
流動負債	984	913
買掛金	83	89
短期借入金	650	650
一年以内返済 長期借入金 等	21	21
未払金	49	72
その他	179	79
固定負債	67	55
負債合計	1,051	968
純資産合計	1,729	1,899
負債・純資産合計	2,781	2,867

1. (3) 財務の概況 — B/S

総資産

2,867

(百万円)



高いキャッシュポジションを維持し、
自己資本比率 **66.2%** (前期末62.1%) と

健全な財務基盤を保持

2026年5月末日時点

(4) 第20期（2026年8月期）3Q単体業績ハイライト

1. (4) 第20期 (2026年8月期) 単体業績ハイライト

売上高

前年同期比 -8.9%

1,139百万円

(計画比 -12.6%)

営業利益

前年同期 67百万円

-1百万円

(計画から -46百万円)

当期純利益

前年同期 -65百万円

-62百万円

(計画から -86百万円)

FY26 第3四半期 概況

単体利益が計画の進捗を下回った主な要因は、米国子会社に対する貸付金への貸倒引当金の計上という一過性の会計処理に加え、リニアモーター、顔認証、AIカメラ、RFIDなどの成長分野に対する戦略的な研究開発投資を積極的に実施したことにあります。また、不採算事業からの撤退に伴う売上減少および一時的な費用の計上も利益を押し下げる要因となりました。

一方で、当社の主力であるAsReader事業は堅調に推移し、**第3四半期会計期間売上高は過去最高を更新**いたしました。高付加価値モデルへのシフトに加え、新型AsReaderや顔認証ソリューションの展開も順調に進んでおります。また、**戦略的にストックビジネスの強化を推進した結果、継続収益につながる案件の獲得が着実に増加**しており、収益基盤は一層強化されております。

さらに、当社は**日本国内に加え、米国においても新たなRFID関連特許を取得**いたします。これにより、当社のRFID特許ポートフォリオは一層強化され、競争優位性と参入障壁がさらに高まりました。これまで継続してきた研究開発投資は、将来の収益拡大を支える重要な成長投資であり、その成果が着実に形となり始めております。

今後は、これらの技術を「投資フェーズ」から「収益化フェーズ」へ移行させ、日本市場での導入拡大を起点に、米国をはじめとする海外市場への展開を加速してまいります。また、先行投資を継続しながら、ストックビジネスの拡大による安定収益基盤の構築と利益成長を実現し、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

2. 事業概要および導入実績

2. 事業内容

当社は、RFIDを中核技術とする「モノ認識」ソリューション企業です。

「RFID」を中心に、「画像認識」「バーコード」「センサー」「AI」などの先進技術と「AsReader」をはじめとする「モバイル技術」を融合し、人や情報、あらゆるモノをリアルタイムに認識・デジタル化します。

取得したデータをもとに業務「プロセスの自動化」を実現することで、人手を介さない次世代のオペレーションを構築し、小売・物流・製造など幅広い業界の生産性向上とDXを推進します。

モノ認識・自動化

主力商品

バーコードリーダー



RFIDリーダーライター



IrDA (自動販売機)



展開中

画像認識



RFID化ソリューション(スーパー向け)



今後の取り組み

リニア



AsReader事業

多数の事例が証明、RFIDが実現するスマホで業務改革

物流、倉庫、小売、製造、医療など、幅広い業界でRFIDの活用が広がっています。AsReaderは、RFIDを中核に、バーコードや画像認識などのモノ認識技術をスマートフォンで活用できるプラットフォームです。現場の「人・モノ・情報」をリアルタイムにつなぎ、業務の自動化とDXを推進します。AsReaderは、RFIDを通じて、次世代の現場づくりを支えます。

システムインテグレーション事業

RFID×モバイルが、ビジネスを変革する

RFIDを中核技術として、Android・iPhoneをはじめとするスマートデバイス向けアプリケーションの開発から、システム連携までをワンストップで提供します。RFIDを軸に、バーコード、画像認識、AIなどの先進技術を融合し、人・モノ・情報をリアルタイムにつなぐことで、業務の自動化と生産性向上を実現するシステムインテグレーターです。

2. 事業概要とビジネスモデル

AsReader事業

DX事業部

BtoB

スマートフォン装着型バーコードリーダー、スマートフォンのカメラアプリを使用したバーコードリーダー、スマートフォンカメラでOCRを認識し期限管理を行うアプリケーション「SdcO」などの販売



NX事業部

BtoB

スマートフォンなどのモバイル端末からRFIDを利用し、モノの情報を簡単に可視化できるRFIDリーダーライター、RFIDバスケット読取ソリューション、情報管理を行うソフトウェアパッケージ」の販売



AI事業部

BtoB

BtoC

顔認証技術を活用した端末「AsReader GoMA」の販売を継続および、AIカメラの開発、製品化

AsReader GoMA



AsReader One

Digital Showcase
デジタルショーケース

LM事業部

BtoB

リニアモーター技術を活用した新製品の販売に向けた開発



システムインテグレーション事業

IT事業部

BtoB

従来のシステム受託開発に加え、新たにパッケージソフトウェアの販売を開始するとともに、AsReaderと連携したソリューションを活用し、お客様のニーズに合わせたシステム開発を提供



(当社のAI技術を用いたパッケージアプリ)

手のひらサイズで実現する次世代POSレジ、セルフレジ
POS「Salasee (セラシー)」



手のひらの次世代POSレジ、セルフレジ

クラウドが動く、次世代POSのスタンダード。
大企業が信頼する確かな実績と、最新の柔軟性。
売り場の形に縛られない、自由な決済と管理。



IoT × AsReader = DX

事業連携



顧客連携

システム開発

2. 導入実績

国内、海外、大企業様で
続々導入して
いただいています。

流通



物流



製造



医療・介護



海外



その他



導入実績ページ：<https://asreader.jp/catalog/>

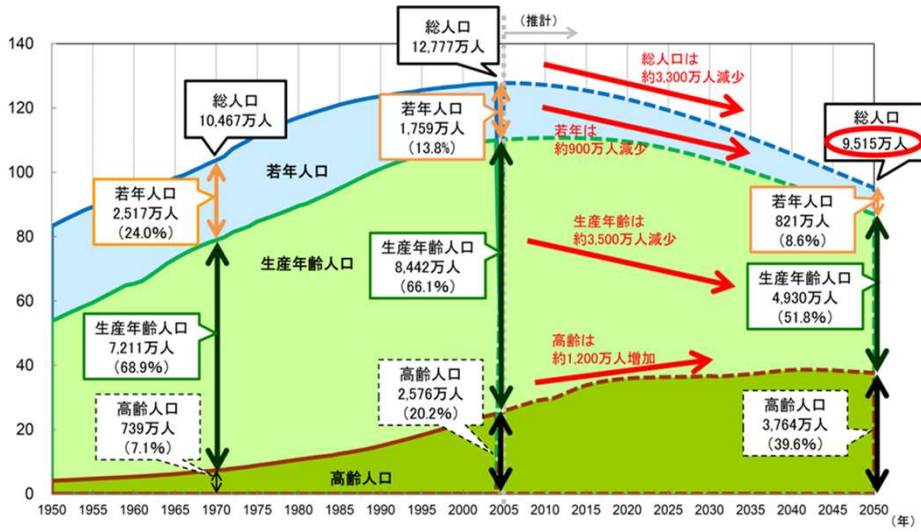
3．経営環境、当社の動きと成長イメージ

3. 世の中の背景とアスタリスクの戦略

日本の人口推移

「国土の長期展望」が指摘する通り、日本は人口急減と超高齢社会に伴う「縮小の衝撃」に直面しています。この社会維持を揺るがす危機を克服し、限られた人的資源で持続可能な社会を構築するには、現場の生産性を劇的に向上させるDXの推進が不可欠です。

当社は、独自のモノ認識技術とモバイルを融合させ、この課題に挑みます。RFIDや画像認識技術「AsCode」により、流通・製造現場のアナログ作業を自動化し、人手不足に悩む現場の負担を劇的に軽減します。さらに、環境音とデジタル情報を繋ぐ「AsReader PTT」等のウェアラブルデバイスを通じ、労働環境の改善と業務の高度化を支援。現場の「負」を解消し、一人ひとりの豊かな暮らしと強靱な国土を守り抜くことで、世界に先駆けた新たな成長モデルを提示してまいります。



出典：「国土の長期展望」中間とりまとめ
概要（平成23年2月21日）国土審議会政策部会長期展望委員会

RFIDソリューションの世界市場推移

矢野経済研究所の調査によると、RFIDソリューションの世界市場は2027年に2兆3,379億円規模に達すると予測（23年～27年のCAGR 12%）されています。この背景には深刻な労働力不足や欧州のDPP規制があり、自動化ニーズが急増しています。

当社はこの成長市場において、トヨタ自動車等への導入実績による高い信頼性を強みに、戦略的優位性を確立しています。2025年10月発売の「ASR-M30S」はバッテリーレス設計で極限の軽量化を実現し、さらに特許出願中の「FIND AsCode」がRFID運用の弱点であるタグ破損を補完します。人件費削減や離職率改善といった付加価値を提供し、国内はもとより巨大なグローバル市場のシェア獲得を牽引する成長エンジンとして事業を推進してまいります。



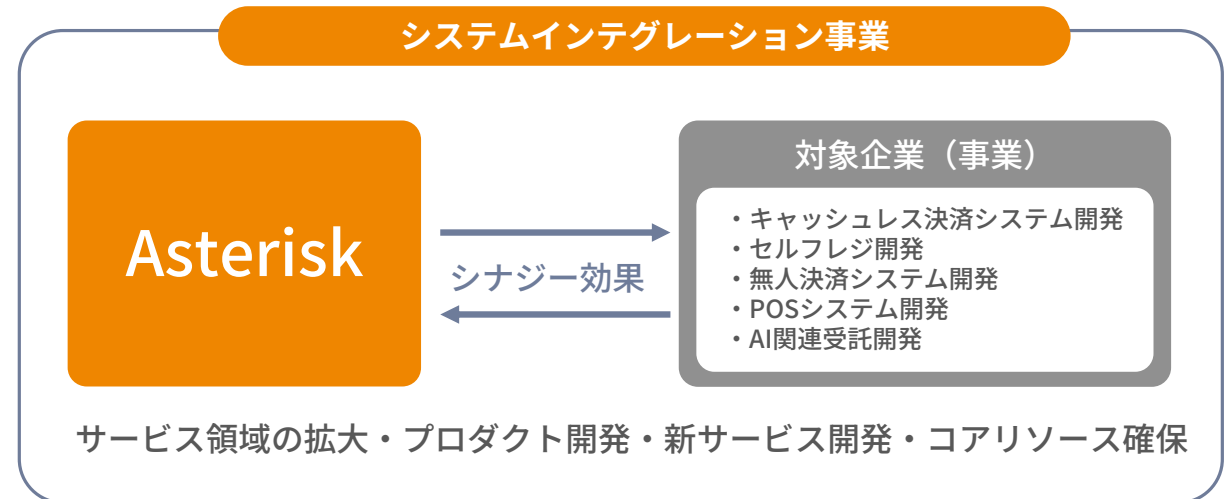
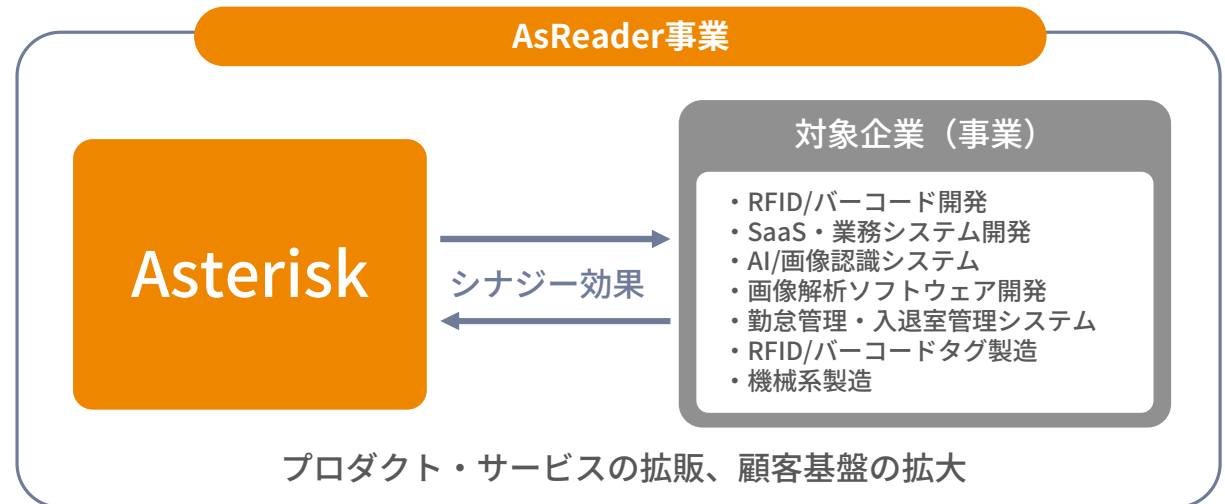
注1. メーカー出荷金額ベース（1US\$=150円換算）
注2. 2025年は見込値、2026～2027年は予測値
注3. RFID ICタグ、ハードウェア（リーダー・ライター、デスクトップ型・モバイル型RFIDプリンター）、関連ソフトウェア（ミドルウェア、クラウドサービスを含む）を対象として、算出した。
なお、非接触のICカード、アクティブのICタグと関連機器、関連ソフトウェアは含まない。
引用：矢野経済研究所、2025年5月7日、RFIDソリューション世界市場の調査結果
https://www.yano.co.jp/market_reports/C66125500

3. トピックス M&A・アライアンスに向けた取り組み

M&Aやアライアンスの豊富な経験を持つ実力派ボードメンバーの参画により、戦略的なM&A推進組織を本格始動
この新体制への移行は、当社の成長スピードを飛躍的に加速させる大きな転換点となる

経験に裏打ちされた高度な知見とネットワークを経営の中核に取り込むことで、機動的かつ確度の高い意思決定基盤を確立。既存事業との相乗効果を最大化する戦略的提携や買収を積極的に展開し、持続的な企業価値の増大と時価総額のさらなる向上を強力に牽引いたします。新役員のジョインによるガバナンスの強化と攻めの経営の融合は、投資家の皆様の期待を超える非連続な成長を実現するための布石であります。

- ✓ M&A推進組織を起ち上げ。この新体制のもとで、時価総額の向上を強力に牽引する機動的な意思決定基盤を確立
- ✓ 当社は今後の成長加速に向け、M&Aおよびアライアンスを重要な成長ドライバーと位置づけている
- ✓ 有機成長を軸としつつ、戦略的M&Aにより成長スピードと事業価値の最大化を図る
- ✓ 技術、プロダクト、顧客基盤の補完を主目的とし、規律ある投資を徹底
- ✓ 中長期的な企業価値・株主価値の向上を目指す



3. 今期の当社の動き

売上100億円以上の達成に向け、新技術の事業化による新サービスを順次提供
新領域へ積極的に参入し、次なるコアプロダクトを創出します

20期は、次の事業部に再編成して事業拡大を目指します

DX事業部 ハンディターミナルをモバイル化へ変革

NX事業部 RFIDや、AsCodeなど新しい認識技術を世に

IT事業部 受託開発に加え、当社パッケージを発表予定

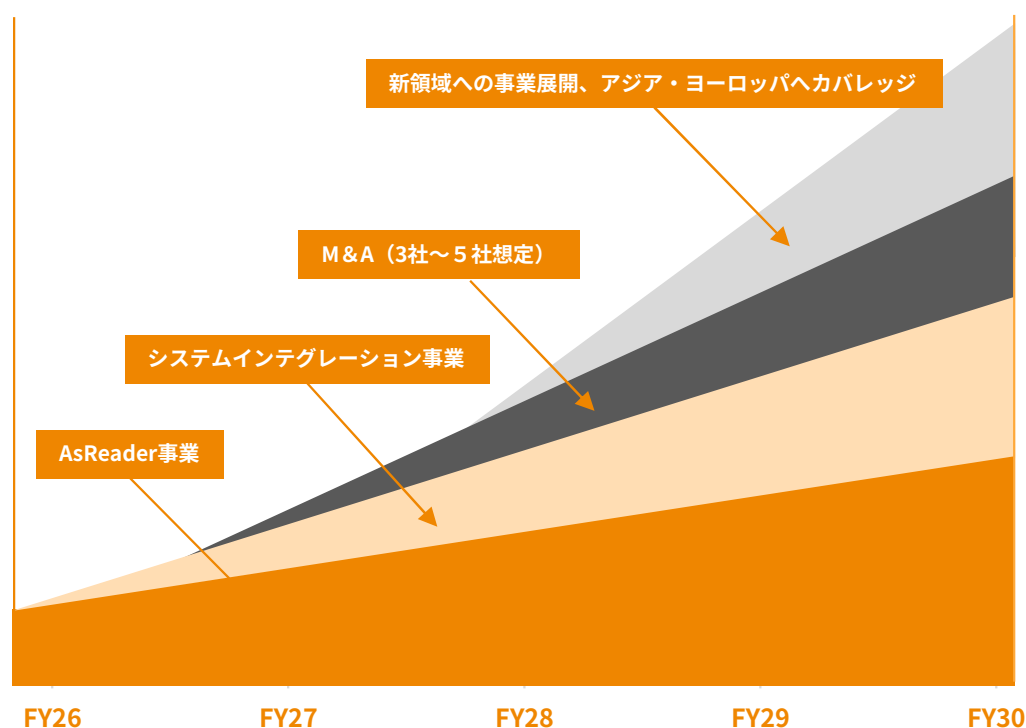
AI事業部 顔認識に加え、AIカメラ等の販売も予定

LM事業部 リニアモーターを事業化

3. 第20期（2026年8月期）成長イメージ

セルフレジ関連の特許取得を武器に、**2030年売上高100億円**を目指す「次世代の商品識別インフラ構築」を推進。M&Aにより開発からAI解析までを垂直統合し、ハード販売に加え**高収益なリカーリングモデルへの転換を加速**させます。日本・米国の成功モデルを欧州・アジアへ一挙に展開し、**特許による優位性とグローバルなカバレッジで指数関数的成長と世界標準の確立**を実現します。

中長期的な成長イメージ



新領域への事業展開、アジア・ヨーロッパへカバレッジ

- ・成長著しいアジア圏での物流自動化需要、およびDX投資が旺盛なヨーロッパ市場において、現地ニーズに最適化したAsReaderを展開
- ・海外の製造・物流拠点に深く食い込むことで、グローバル企業の「グローバル一括導入」ニーズに対応。世界水準のデファクトスタンダード（業界標準）を目指す

M&A・アライアンスによる事業拡大

- ・「AI/画像認識システム」および「画像解析ソフトウェア開発」企業との統合により、AsReaderを「読み取り端末」から「思考する端末」へとアップデートし他社には真似できない高度な自動化を実現
- ・大手メーカー、国内外の有力代理店やシステムベンダーとのアライアンスを強化し、当社プロダクトのタッチポイントを幾何級数的に拡大

システムインテグレーション事業の成長戦略

- ・AsReaderから収集される膨大なデータを、企業の基幹システム（ERP）やWMS（倉庫管理システム）へシームレスに連携。現場のリアルタイム・データ活用を支援する高付加価値SIを展開
- ・物流・製造・小売といった特定業種における成功事例をパッケージ化。開発効率を劇的に向上させ、高利益率なプロジェクト運営を実現

AsReader事業の成長戦略

- ・セルフレジ特許をコアに据え、単なる端末提供から在庫・資産管理等のアプリ層までを垂直統合した「現場DXワンストップソリューション」へと進化
- ・独自の技術的優位性と高度な付加価値を両立させ、競争を寄せ付けられない強固な参入障壁（エコシステム）を構築
- ・付帯率の向上を通じてストック収益比率を極大化し、景気変動に左右されないレジリエンスの高い収益基盤を確立することで、高収益なリカーリングモデルへの転換を加速し、持続的な企業価値の向上を実現

※ 中長期的な成長イメージは、あくまで経営上の目標を示したものであり、実現の時期を示唆するものではなく実現を保証するものではありません。

4 . Appendix

4. 経営理念

会社概要

会社名	株式会社アスタリスク
代表者	代表取締役 執行役員 社長 鈴木 規之
設立	2006年9月1日
資本金	1,082,530,200円（2026年5月31日現在）
本社	〒532-0013 大阪市淀川区木川西2丁目2-1
東京事務所	〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目35-7 水天宮HSビル2F
URL	https://www.asx.co.jp/
事業内容	■AsReader事業（当社製品AsReaderの企画、開発、販売） 画像認識、バーコード、RFID、センサーなどの「モノ認識」技術を用いたAsReader・iOSやAndroidを中心としたモバイル端末と連携するAsReader・上記を用いたパッケージアプリケーション・その他、業務用製品の受託開発 ■システムインテグレーション事業（業務関係のSI事業） 画像認識、バーコード、RFID、センサーなどの「モノ認識」技術を用いた受託開発事業・iOSを中心としたモバイルアプリの受託開発事業・「モノ認識」技術を用いた業務コンサルタント・モバイル端末を用いた業務コンサルタント ■賃貸事業

経営理念

ITを通じて、三方笑顔を創造し、人類・社会の進歩発展に貢献します

1. 自己の良心をもって、信頼と安心を築き、三方笑顔を創造します
2. 早さを追求し、スピードあふれる行動をもって、三方笑顔を創造します
3. 新しいIT技術、斬新なサービスをもって、三方笑顔を創造します

当社の取り組みの姿勢

人に変わる自動化に貢献して、人類社会の進歩発展に貢献する

強みは「モノ認識」技術
そして、「モバイル」
キーワードは「自動化」

4. 海外拠点

アメリカに販売拠点を設置し、海外でも積極的に販売展開を推進

大連明日星科技有限公司



株式会社 アスタリスク

Dalian

Shiga

Tokyo

Nagoya

Shenzhen

Osaka

大連明日星科技有限公司

深セン分公司

AsReader, Inc.

Portland

2012 / 5

中国・大連市にモバイル端末用システム開発拠点として、
大連明日星科技有限公司を設立

2015 / 1

米国・カリフォルニア州にAsReaderの海外販売拠点として、
AsReader, Inc.を設立（後にオレゴン州に移転）

2017 / 10

中国・深圳市に研究開発の技術センターとして
大連明日星科技有限公司深セン分公司を設立

4. 変革をリードし、企業価値向上にコミットするボードメンバー



代表取締役 執行役員 社長
鈴木 規之

技術的優位性とグローバル競争力の源泉
大阪大学大学院で数学（位相幾何学）を専攻した背景を持ち、論理的思考を「モノ認識」のアルゴリズムに昇華させる異色の発明家経営者。東レグループでの実務経験から製造・物流現場の非効率を痛感し、「AsReader」を開発。数学的アプローチによる独創的な製品開発は、模倣困難な高い参入障壁を築く。また、自ら海外3子会社のCEOを兼任し、「ルーク・スズキウォーカー」として欧米市場でのパーソナル・ブランディングを確立。これが広告宣伝費を抑えたブランド浸透と、世界的企業との戦略的提携を可能にしており、グローバル展開における強力な広告塔として資本効率の高い成長を牽引する。



取締役執行役員 事業部長
加藤 栄多郎

市場インサイトによる爆発的グロースの立役者
商学部で培った市場分析と会計学の知見を武器に、徹底した収益性重視の営業戦略を推進する実効型リーダー。現場の一次情報を重視する「三方笑顔」の哲学に基づき、顧客の潜在ニーズを製品開発に即座にフィードバックする体制を構築。世界的大手メーカーでのトップセールス経験を活かし、売上高2億円規模から18億円超へと短期間で急成長させた実績は、同社の営業組織の再現性とエンタープライズ案件（大手菓子メーカー等）の獲得能力を証明している。プロダクト開発と営業戦略を統合し、LTV（顧客生涯価値）を最大化させる仕組みづくりに強みを持つ。



取締役執行役員 技術室長
中川 陽介

技術の社会実装と品質保証の中核
立命館大学電気電子工学科卒のエンジニアリング背景を持ち、大手製造メーカーから上場企業まで、社会インフラに関わる多様な製品開発を完遂してきた「社会実装のプロフェッショナル」。同氏の強みは、単なる技術開発に留まらず、企画から量産、導入後の品質保証までを一貫してマネジメントできる。技術を「事業の成功」に結びつけるプロダクトマネジメントを重視しており、現場の厳しい要求に応える高品質な製品供給体制を実現。これにより、企業の信頼性向上と、不具合リスクの低減による安定した事業継続を技術側面から支えている。



取締役執行役員 管理統括室長
太田 尚友

資本効率の最適化とガバナンスの守護神
経営学修士（MBA）としての戦略的視点と、商社・通信キャリアでの新規事業立ち上げ、さらには3社のIPOを主導した豊富な実務経験を併せ持つ財務戦略のスペシャリスト。M&AやCVC設立、大規模なエクイティ・ラウンドの遂行能力に加え、低コストなデットファイナンスによる最適なキャピタル・ストラクチャーの設計に強みを持つ。IR・広報責任者として、資本市場に対して透明性の高い情報発信を行い、企業価値と株価の相関を意識した経営を実践。財務健全性の維持と成長投資のバランスを高度に制御し、投資家利益の最大化をコミットする管理体制を構築する。

取締役 監査等委員 （常勤） 石田 泰一	1980年4月	カネボウ株式会社入社
	1998年4月	同社フィラメント事業部大阪販売部部長就任
	2004年11月	同社フィラメント事業部長就任
	2005年7月	KBサーレン株式会社へ転籍、取締役就任
	2008年6月	同社監査役就任
	2012年9月	エム・テック株式会社 入社
	2013年9月	ピコエイダ株式会社 入社
	2014年2月	当社 入社
	2014年4月	当社 管理統括室長就任
	2014年11月	当社 取締役就任
	2021年11月	当社 取締役・監査等委員（常勤）就任(現任)

取締役 監査等委員 （非常勤） 岩崎 文夫	1972年4月	阪急電鉄 入社
	1996年6月	阪急タクシー株式会社取締役就任
	2007年4月	同社代表取締役社長就任
	2009年6月	能勢電鉄株式会社代表取締役常務就任
	2010年4月	学校法人宝塚音楽学校理事・校長就任
	2014年11月	当社 監査役就任
	2018年11月	当社 社外取締役監査等委員就任
	2021年11月	当社 社外取締役監査等委員（非常勤）就任(現任)

取締役 監査等委員 （非常勤） 山元 教有	1996年4月	澤電気機械株式会社 入社（現任）
	2009年10月	中小企業診断士 登録
	2013年4月	当社 監査役就任
	2018年11月	当社 社外取締役・監査等委員就任(現任)

4. 直近の展示会出展実績・予定

国 内

- リテールテックJAPAN
東京ビッグサイト
2026年3月3日(火)～6日(金)
<https://messe.nikkei.co.jp/rt/>
- 第7回関西物流展
インテックス大阪
2026年4月8日(水)～10日(金)
<https://www.kansai-logix.com/>
- 国際モダンホスピタルショウ2026
東京ビッグサイト
2026年7月8日(水)～10日(金)
<https://www.noma-hs.com/module/booth/385630>
- 国際物流総合展2026
東京ビッグサイト
2026年9月8日(火)～11日(金)
<https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/ltt/index.html>

海 外

- NRF 2026 Retail's Big Show (New York)
2026年1月11日(日)～13日(火)
<https://nrfbigshow.nrf.com/>
- MODEX2026 (Atlanta)
2026年4月13日(月)～16日(木)
<https://www.modexshow.com/>
- RTS26 (London)
2026年4月22日(水)～23日(木)
<https://www.retailtechnologyshow.com/>
- 第28回自動認識総合展
東京ビッグサイト
2026年9月9日(水)～11日(金)
<https://www.autoid-expo.com/tokyo/>

4. お問い合わせ

【お問い合わせに当たってのお願いとご注意事項】

- お問い合わせ内容によってはお答えできない場合もございます。
- 下記①～④に該当するご質問は、IRからの回答を差し控えておりますので、あらかじめご了承ください。
 - ①金融商品取引法第166条「重要事実」に該当する可能性のあるご質問
(株価に関する対策、配当・株主還元に関する内容など)
 - ②非公開情報に関するご質問（業績動向、将来予測・見通しなど）
 - ③株式市場の値動きに関するご質問（株価動向、テクニカル分析、売買手口など）
※当社株価の上下変動や当社が非開示の将来的な株価対策などに関し、個別にお答えすることは差し控えております。
 - ④誹謗中傷に該当するメッセージ（いわれの無い悪口、根拠のない名誉棄損など）
- 当社からご回答としてお送りするメール（電話での回答含む）は、株主・投資家の皆様からお寄せいただいたお問い合わせなどに回答する目的で、個人宛てにお答えするものです。
その内容の一部または全部を転載、二次利用することはご遠慮ください（SNSや、株式関連サイトの掲示板への書き込みなどもご遠慮ください）。
- 各種アンケート、営業目的（売り込み目的）のお問い合わせなどにつきましては、お受けできませんのであらかじめご了承ください。

【本資料へのご意見・ご質問】

本説明会資料やIRに関するご意見・ご質問は、弊社ホームページの「IRお問い合わせ」フォームよりお寄せくださいますようお願い申し上げます。
誠に恐れ入りますが、お電話でのご質問にはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承くださいと幸いです。

【IRお問い合わせ】

(URL) https://www.asx.co.jp/ir/other_info/inquiry/



免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。